

## イキ(粹)に関する分析 — その表現と要素 —

十 河 直 樹

### 1. まえがき—動機

風俗・習慣は時代とともに変化する。

時にはシンプルな装い、時には古典的な服飾に、観る人の目をひき止めようとする。

同時に、その装いに対する表現もしかりで、重厚な意味を軽快な音に変えて言葉とする。その代表的な言葉が「わび」「さび」と言った詞ではなかろうか。この詞は、日本人しか用いることができない、日本人しか理解できない。しかも、その意味は深く、重い。

そういった類語は、他にもあって、粹(イキ・スイ)も同様ではあるまいか。

### 2. イキ(粹)の語義解析

イキ「粹」は、江戸初期に発祥された用語。元来は、遊里語である。元は、美意識の表現に用いられた語で、①さっぱりとしてあかぬけしている。野暮(やぼ)でなく、気のきいた人。といった常人より物事にあかぬけた人柄として用いた表現である。その語源は、②「意気」で勢い・活力・活動力のあるといった点にルーツがある。さしずめ③男らしい、と直感するが、そういった意味合いよりも、むしろ④人情の表情の表裏に通じている、といった、30歳ぐらいから50歳ぐらいまでの男女に用いる限定がつく。「イキナ オアニーサン」とか「イキナ ネーサン」は、どうみても10代や50代以上の人には用いられない。⑤身軽さ、機知・機転のきく人にも使える。「イキデ イナセナ」とは、まさに、その意義がピッタリである。⑥また、先に記した様に遊里語であることから、男女の色事、艶ごとにも知りつくしている男女に対して用いる。女人の心理、男心の動揺を、イキ(粹)は内包しているという訳である。

さらに、外形、外観に焦点をあてると、⑦身なりが、さっぱりしている。着用している衣服に並でなく、どこか印象的な色彩と着なしがある、といった緒点が目につく。

### 3. イキ(粋)の類義語分析

イキ(粋)かどうかは、やはり外観(容姿)から見るようで、現代はまさにその用語が氾濫しているようにさえ思われる。

次に、イキ(粋)に関する類義語として分析したものを表示する。

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| ③色気を持っている・媚態  | ⑫スマート(さ)        |
| ⑧気立て          | ⑪派手(さ)          |
| ⑥身なり          | ⑩つやっぱさ          |
| ⑦当世風の         | ④人情の表情の表裏に通じている |
| ②さっぱりとあかぬけている | ⑤遊里・遊興のこと       |
| ⑨奇抜さ          |                 |

		内 面				外 面								
						C B A								
		③	⑧	⑥	⑦	②	⑨	⑫	⑪	③	⑩	④	⑤	
A	1 イキ(粹)	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
	21 オツ(ナ)	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
	18 アジ(ナ)	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		
	19 アジーナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	17 コイキ(ナ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	16 イナセ	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	6 イカス		○	○	○	○	○	○	○	○				
	10 アカヌケトル			○	○	○		○	○	○	○			
	8 ダテ			○	○	○	○	○	○	○				
	11 カンジノエー		○	○	○	○		○	○			○		
B	4 ウズナイー	○		○	○	○	○			○	○			
	3 ナウ(い)			○	○	○	○	○	○					
	14 カッコイー			○	○	○	○		○					
	2 シャレ(タ)			○	○	○	○		○	○				
	12 カッコノエー			○	○	○	○	○	○					
	5 ウマゲナ			○	○	○	○						○	
	7 スイ(ナ)			○	○			○				○	○	
	13 ヤルー			○	○		○		○					
	9 トンデル			○	○		○		○					
	15 ツー			○	○							○	○	
C	20 ウルトラシー			○	○			○						

現で、全体の6/21(0.28%)

Bエリア16称(A+6, 10, 8, 11, 4, 3, 14, 2, 12, 5)

内、連語が、カンジノエー、カッコノエーの二称、古語は、ダテ、シャレ(タ)、ウマゲナ、流行語のイカス、ナウ(い)、などが目をひく。内面的な意味の表現工作はなく、直感と色彩、形態美といった外面的な表現に注目。全体の16/21(0.76%)

Cエリア21称(A+B+7, 13, 9, 15, 20)

内、古語はスイ(ナ)、ツーの二語。連語がなく。流行語はトンデル、ウルトラシー、ヤルーの三称、意外性のある様態表現で、現代感覚を表現したもの。